

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2022年2月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2022年2月7日～2月28日
- 調査対象 200社
- 回答企業 127社
- 回収率 63.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の2月の状況を見ると業況DIは、前月より10.2ポイント悪化の▲35.4となった。

2017年9月以来54ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲33.9、当月と比べ1.5ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2021年 9月	10月	11月	12月	2022年 1月	2月	先行き見通し 2022年3月～ 2022年5月
業況	▲42.0	▲32.6	▲33.4	▲23.0	▲25.2	▲35.4	▲33.9
売上	▲26.4	▲14.7	▲15.4	▲6.3	▲10.0	▲26.8	▲29.1
採算	▲45.2	▲34.9	▲35.8	▲21.4	▲27.5	▲33.9	▲32.3
仕入単価	▲51.6	▲62.0	▲65.1	▲65.9	▲68.7	▲68.5	▲63.8
販売単価	5.6	4.7	13.0	8.7	13.0	14.2	16.5
従業員	25.8	19.4	21.1	23.1	23.7	21.3	22.9
資金繰り	▲18.6	▲17.1	▲11.3	▲6.3	▲11.5	▲22.0	▲22.8

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2021年 9月	10月	11月	12月	2022年 1月	2月	先行き見通し 2022年3月～ 2022年5月
建設	▲31.1	▲18.5	▲43.4	▲32.2	▲27.6	▲35.7	▲39.3
製造	▲42.9	▲37.5	▲41.4	▲26.7	▲9.7	▲23.3	▲16.7
卸売	▲29.6	▲20.7	▲22.2	▲7.4	▲28.5	▲35.7	▲28.6
小売	▲52.9	▲44.5	▲26.7	▲23.5	▲44.4	▲44.4	▲44.4
サービス	▲60.9	▲47.8	▲27.3	▲25.0	▲24.0	▲43.5	▲47.8

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の退職による技術者不足と新卒者の確保不足の両面による人材不足。働き方改革への対応について試行錯誤している。（総合工事） ・コロナの影響は特になし。工事受注量は昨年より10%程度増加しているが、資機材価格の高騰により利益率は低下している。今後は更に資機材、燃料等価格の高騰により、利益を圧迫すると予想している。（総合工事） ・オミクロンの影響で細部の情報が入手しづらくなってきた。（設備その他） ・木材価格の高止まり。各種建材等の値上げ、ボイラー等設備機器の不足等によるコスト増。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナのオミクロン等の感染拡大に伴い国内向けの出荷はほぼない状態である。海外向けの出荷は若干あるものの、厳しい状況が続いている。（食料品） ・副材料、資材等の値上がりがさみだれ式にあり1月迄は順調に推移していたがコロナの影響で先行見通しは不明。（食料品） ・運送費や仕入木材の価格の上昇が今後も引き続き懸念される。（家具・木材） ・鉄系の値上がりは大幅落ち着いてきたが、SUS材、アルミ材の値上がりが続いている。販売価格の改定も進めているが改定が追いつかない状況。コロナと資材高騰で物件の発注が止まっている、受注環境は先が見通せない。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌圏の大雪の影響で様々な業務が停止したこと、値上げによる消費の低迷が影響している。（繊維・衣服等） ・諸経費の単価が軒並値上りし、商品の単価を値上げせざるを得ないので、その後の客離れが心配。（飲食料品） ・昨年9月以降、なかなか入荷してこない資材が多々ある。資材の価格上昇が落ち着くことがなく、現時点では状況が好転する要素がない。（機械鋼材） ・半導体不足とコロナウイルスの影響で新車の納期が延び、それに関わる添付品等の納入が遅れている。今回の蔓延防止等重点措置は、前回までとは違い人流抑制の影響が、売上にも影響が出ている。この春は値上げの商材が多く、コスト増である。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスによる影響により来店客がまったくなくお手上げ状態。2022年春物商品の入荷も有りメーカーへの支払いの為に資金繰りが大変である。売上更にダウン。（衣服身回品） ・新型コロナオミクロン株感染拡大にて人流がストップ、特に卸部門（空港・駅）が不振。（食料品） ・ふるさと納税の返礼品の影響で受注が伸びたが、ひと段落ついたあとは売上が落ち込みそうである。（その他） ・原油高騰による仕入価格上昇分の価格転嫁遅れ。雪が少なく除雪関連の需要減。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・前年比20%の減少で中々前年比にたどり着かない。病院寝具は伸びている反面、ホテルリネンの観光事業が大幅に落ち込み、コロナの影響で宿泊者減少に伴い、ホテルリネンは3割の落ち込みである。（理美容・クリーニング） ・年度末を迎え多忙を極めているがオミクロン株の拡大により、在宅勤務を強いられ作業の進捗率が下降気味である。（その他） ・人員不足等により客先要求に対応できなくなる。現在は辛うじて対応。（飲食） ・爆発的な感染拡大の影響から、都市間、市内路線共に利用者的大幅な減少となっている。また札幌圏の大雪等により都市間利用者の減に追い打ちをかけている。更に燃料価格改善に対する好材料が無い中、高騰が今後も続くと思われる利用者減、燃料価格高騰、乗務員不足により非常に厳しい状況となっている。（運送） ・1月中旬までは徐々に回復基調をたどっていたものの、下旬からの感染再々拡大やまん延防止施策による人の移動量減少、さらに燃料価格の高騰継続で業況悪化が大きい。2月に入って社内にも感染者が増えはじめ、人員不足に拍車がかかってきている。冬期型の貸切バス需要も停滞。感染抑止と打開策との両立は非常に困難であると言わざるを得ない。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI11.5 ポイント悪化、採算 DI1.1 ポイント悪化、仕入単価 DI4.5 ポイント改善、販売単価 DI 横ばい、資金 DI7.3 ポイント悪化、従業員 DI13.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 8.1 ポイント悪化となった。業種別では、総合工事 2 ポイント、設備・その他 13 ポイント、建築業 7 ポイント悪化となった。コロナ禍の影響により資材調達が遅れている他、仕入れコストの上昇が続いているとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI6.6 ポイント改善、採算 DI5.9 ポイント改善、仕入単価 DI0.3 ポイント改善、販売単価 DI24.0 ポイント改善、資金 DI16.7 ポイント悪化、従業員 DI4.1 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 13.6 ポイント悪化となった。業種別では、印刷・出版 20 ポイント、家具・木材 4 ポイント改善、食料品 29 ポイント、金属窯業他 30 ポイント悪化となった。ウッドショックにより、木材価格の高騰と入手困難な状況が業績を圧迫しているとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI35.7 ポイント悪化、採算 DI3.6 ポイント悪化、仕入単価 DI7.2 ポイント悪化、販売単価 DI14.2 ポイント悪化、資金 DI3.6 ポイント悪化、従業員 DI3.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 7.2 ポイント悪化となった。業種別では、繊維衣服等・食料品 10 ポイント改善、機械鋼材 21 ポイント、その他 25 ポイント悪化となった。モノの値上がりの連絡が毎日のように来る。ガソリン代の高止まりが、経費にのしかかっている。コロナで売上も悪化との声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI16.7 ポイント悪化、採算 DI11.1 ポイント悪化、仕入単価 DI5.5 ポイント改善、販売単価 DI5.6 ポイント悪化、資金 DI5.5 ポイント悪化、従業員 DI5.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は横ばいとなった。業種別では、食料品 25 ポイント悪化、衣料品、自動車横ばい、その他 14 ポイント改善となった。燃料油激変緩和、補助金で 2 月の元売仕入は値上りが抑えられているが、それ以上に原油高の勢いは止まらず当面、口銭・採算は良くならないだろう。それだけに安値量販店に対し規制を出したい位であるとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI31.9 ポイント悪化、採算 DI27.8 ポイント悪化、仕入単価 DI0.9 ポイント悪化、販売単価 DI5.1 ポイント悪化、資金 DI19.9 ポイント悪化、従業員 DI11.9 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 19.5 ポイント悪化となった。業種別では、その他 20 ポイント改善、理美容・クリーニング、整備業横ばい、ホテル・旅館 40 ポイント、飲食 20 ポイント、運送 50 ポイント悪化となった。燃料の高騰が続いており、前年同月対比軽油単価 1 リットル 25 円上がっている。前年対比でも毎月 50 万以上の増加になり、4 月より運賃値上げ予定との声も寄せられている。</p>